

# 令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区 名 生野区  
学校名 北巽小学校  
学校長名 長井 博和

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動をご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

## 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 調査内容

### (1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

### (2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

## 3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・北巽小学校では、第6学年56名

## 令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語の平均正答率は、全国67.2%、大阪府67%、北巽小62%（全国比92%、大阪府比93%）領域別に大阪府の中で比べた場合、「話す・聞く」領域は大阪府比94%、「書く」領域は大阪府比103%、「読む」領域は大阪府比91%であった。平均正答率、領域別結果とともに令和4年度の対全国比、対大阪府比より向上していることが分かった。

算数の平均正答率は、全国62.5%、大阪府62%、北巽小58%（全国比93%、大阪府比94%）領域別に大阪府の中で比べた場合、「数と計算」領域は102%、「図形」領域は86%、「変化と関係」領域は92%、「データの活用」領域は94%であった。平均正答率に関して令和4年度の対全国比、対大阪府比より向上していることが分かった。

## 分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

### [国語]

成果…「書く」領域は大阪府比を3%上回り非常によくできている。  
課題…「読む」領域の習得に課題があり、「情報の扱い方に関する事項」に関する問題にも課題がある。  
しかし、課題面の領域でも対大阪府比は91%で、かなり近づいてきている。  
また、第IV区分率についても、昨年度より14.3%改善されている。

### [算数]

成果…「数と計算」領域は大阪府比を2%上回り非常によくできている。  
課題…昨年度から引き続き「図形」領域に一番の課題がある。  
しかし、どの領域も対大阪府比は85%以上で、かなり近づいてきている。  
また、第IV区分率についても、昨年度より26.7%改善されている。

質問紙調査より

### 成果

- ・「自分にはよいところがある」への肯定的回答が、全国より4.2%、大阪府より6.6%高い。
- ・「先生はあなたのよいところを認めてくれる」への肯定的回答が、全国より3.2%、大阪府より3.3%高い。
- ・「将来の夢や目標を持っている」への肯定的回答が、大阪府より0.7%高い。

### 課題

- ・「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」への肯定的回答が、全国より6.4%、大阪府より1.5%低い。
- ・「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか」への肯定的回答が、全国より2.7%低い。

## 今後の取組(アクションプラン)

●国語では、4つの取組によって「話す・聞く」「読む」2領域の平均正答率を上げる。 1. 読む本の種類を吟味し、読書活動の充実を図る。 2. 自分の考えを深めたり、広げたりすることができるよう、学級の友達との間で話し合う活動を増やす。 3. 簡単な読解問題を、継続的に取り組ませる指導体制を作る。 4. リーディングスキルを意識した授業プランの検討を行う。

●算数でも、4つの取組によって「図形」領域の平均正答率を上げる。

1. 全国学力・学習状況調査に即した様々な問題を解く時間を設ける。
2. 流暢性を高める「算数チャレンジ」のような問題を継続的に行う。
3. 具体物を用いた「わかりやすい授業」の充実を図る。
4. 習熟度別少人数指導やデジタルドリルの活用など個別最適化された学習環境を作る。

## 【 全体の概要 】

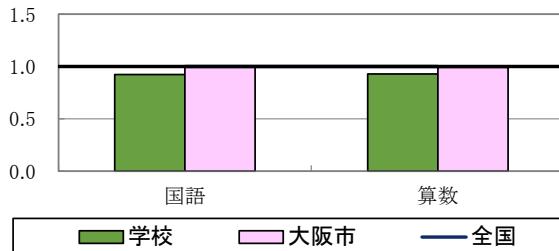
### 平均正答率 (%)

	国語	算数
学校	62	58
大阪市	67	62
全国	67.2	62.5

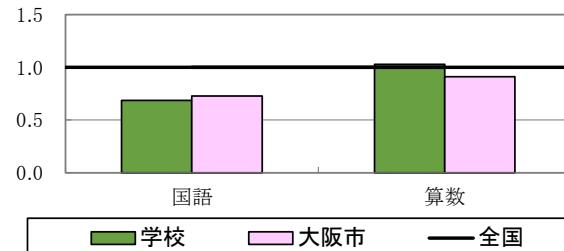
### 平均無解答率 (%)

	国語	算数
学校	3.3	3.5
大阪市	3.5	3.1
全国	4.8	3.4

平均正答率(対全国比)



平均無解答率(対全国比)



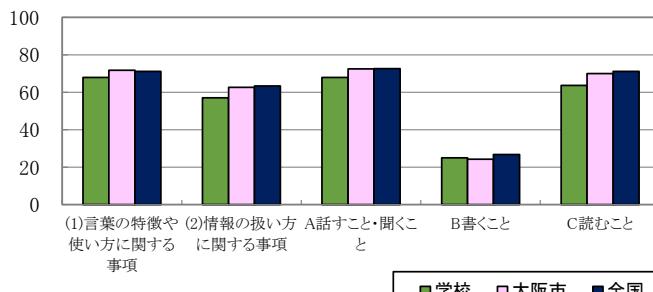
### 【 国 語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	5	67.9	71.7	71.2
(2)情報の扱い方に関する事項	2	57.1	62.6	63.4
(3)我が国の言語文化に関する事項	0			
A 話すこと・聞くこと	3	67.9	72.4	72.6
B 書くこと	1	25.0	24.2	26.7
C 読むこと	3	63.7	69.9	71.2

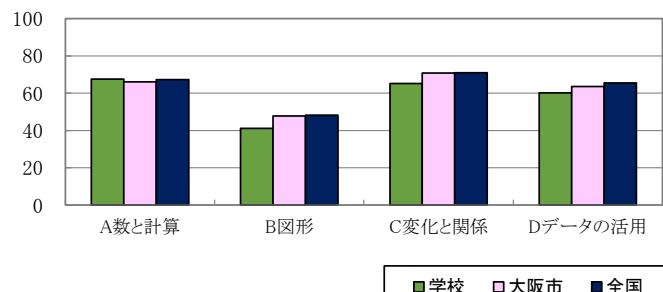
### 【 算 数 】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	6	67.6	66.1	67.3
B 図形	4	41.1	47.8	48.2
C 測定	0			
C 変化と関係	4	65.2	70.8	70.9
D データの活用	3	60.1	63.6	65.5

国語 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



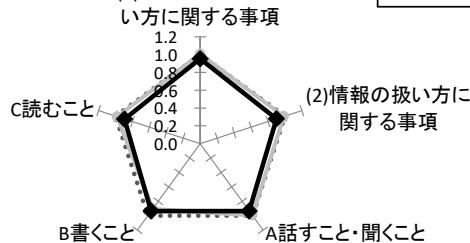
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語 領域別正答率(対全国比)

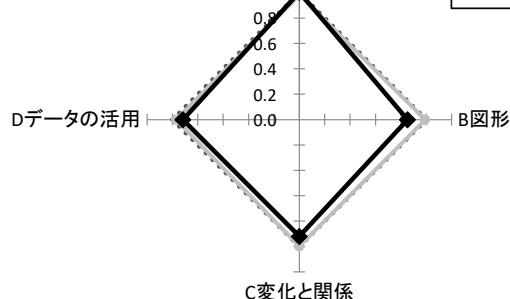
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項

..... 全国  
— 大阪市  
— 学校



算数 領域別正答率(対全国比)

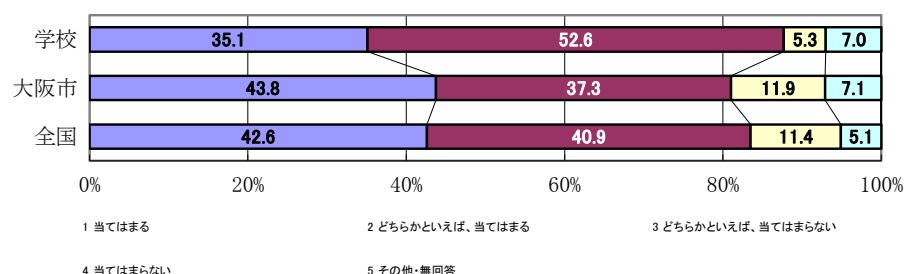
..... 全国  
— 大阪市  
— 学校



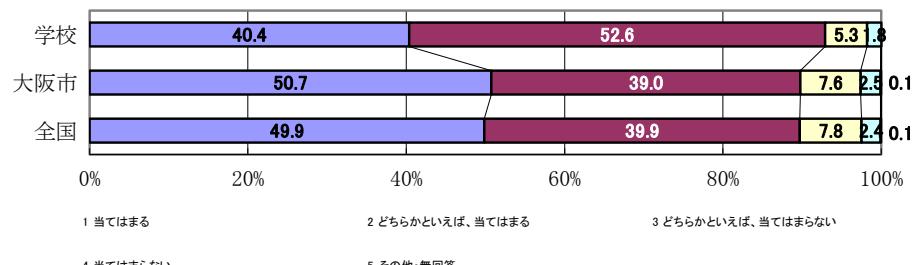
## 児童質問紙より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

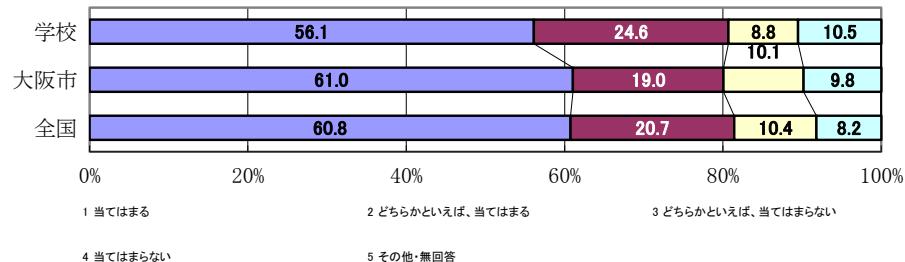
質問番号
質問事項
<b>4</b>
自分には、よいところがあると思う



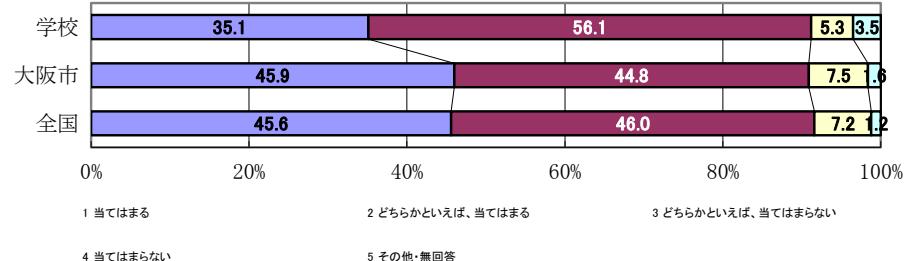
<b>5</b>
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う



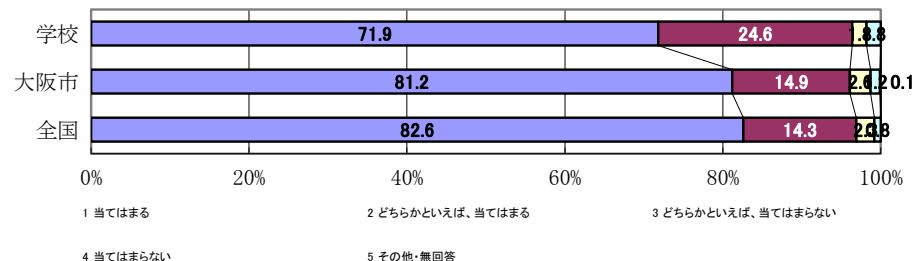
<b>7</b>
将来の夢や目標を持っている



<b>8</b>
人が困っているときは、進んで助けている



<b>9</b>
いじめは、どんな理由があつてもいけないことだと思う

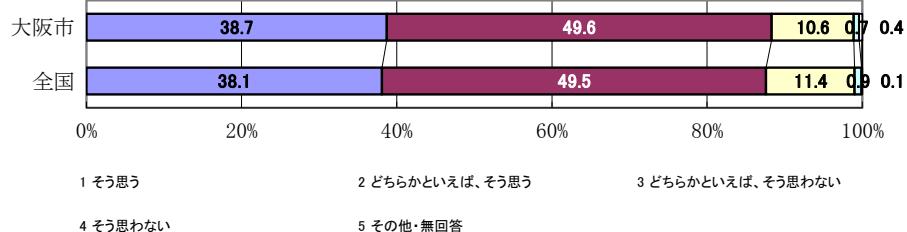


# 学校質問紙より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

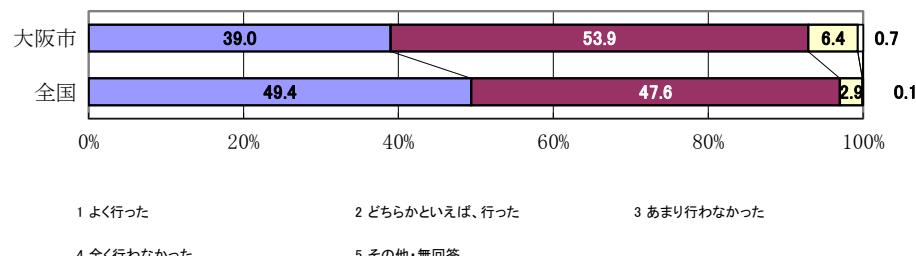
質問番号
質問事項
調査対象学年の児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いている

## 学校 「そう思う」を選択



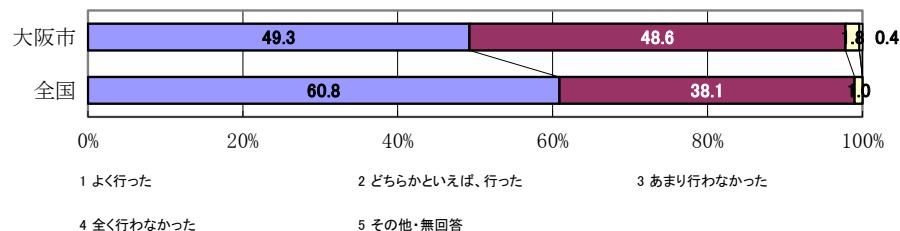
12
調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えた

## 学校 「どちらかといえば、行った」を選択



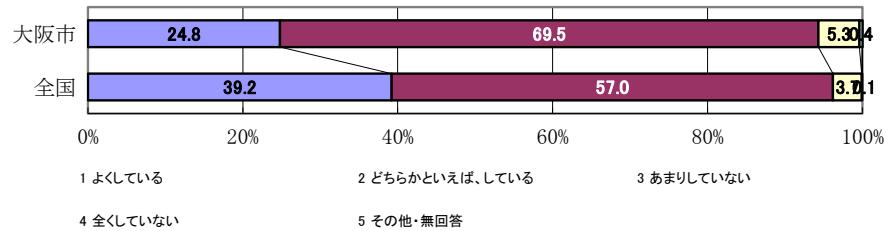
13
調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する(褒めるなど)取組を行った

## 学校 「よく行った」を選択



19
児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している

## 学校 「どちらかといえば、している」を選択



33
調査対象学年の児童に対して、前年度までに、授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れた

## 学校 「どちらかといえば、行った」を選択

